

令和3年4月13日(火)

【第21回北陸地域連携プラットフォーム】

基調講演

テーマ：「副業人材の潮流と産学官金連携の活用事例」

説明者：特定非営利活動法人ETIC. ローカルイノベーション事業部長 伊藤 淳司

NPO法人ETIC. の伊藤と申します。よろしくお願いたします。本日はこのようなテーマで事例を御紹介できればなと思っています。

最初に、簡単に自己紹介をさせていただきます。

NPO法人ETIC. の伊藤と申します。ETIC. は東京のNPO法人なんですけれども、設立は1993年になります。起業家マインドを持った人材を育成しようということで、約25年、活動してまいりました。私は創業メンバーということで、98年ぐらいから約20年、一緒に活動してきております。

ベンチャー企業さんでのインターンシップですとか、最近ですと、人材を育むために各地でいろんな事業を展開しているんですけども、こちらのスライドの下のほうの太文字になっているところ、こちらのあたりは全て副業人材に関する事業なんかも最近は行ってきております。

今日はいただいたお題が、副業の潮流と、担い手、つなぎ手の必要性というところですので、そちらについていろいろ事例紹介をさせていただければと思っています。よろしくお願いたします。

まず、副業人材の潮流ということで、都市部の人材や企業さんの動きなんかも御紹介したいと思っています。副業に関心がありますよという方については、たくさん新聞記事なんかでも出ていらっしゃると思いますので、既に皆さん御存じのところかと思えます。

東京で働いている社会人の皆さんは、震災やコロナがあって非常に地域への関心が高まっています。副業を考えている人材は、我々もいろいろな人材と面談する機会が多いんですけども、若い方だと20代から、シニアの方、60歳前後ぐらいまでで副業を希望される方もいらっしゃるんですけども、目的、理由なんかも非常に多種多様にわたっています。

例えば、30代、40代になってくると、大手の企業で働いている皆さんは、打席に立つ経

験が少ないというところで、地域の中小企業の新規事業の現場に飛び込みたいということで希望されているケースもあつたりですとか、あとここに書いているわけではないんですけども、地域に関心がある、すぐ移住はしないんだけど地域と関わりをつくっていきたい、そういった方できっかけとして副業で入りたいというケースもあつたりします。また、シニアの皆さん、60歳前後になってくると、経験を生かしていきたいというところもありますし、実は副業を希望してサイトにアクセスしてくる半数はフリーランスの皆さんが多いんですけども、そういった皆さんは仕事の一つとして探すという観点でもアプローチをしてきています。

今日はあまりメインの話題ではないですけども、地方創生に関わる仕事、携わる仕事をやりたいという大学生も非常に増えてきているのもここ数年の影響かなと思います。大学生は、意味が分かっているかどうかは別にしても、地方創生に関わる仕事をやりたいというふうに言うてくださるということは、我々が活動を始めた2000年前後からすると、非常に隔世の感があるなと思っています。

一方で、都市部の企業ですけども、副業を後押ししている企業さんも最近が増えてきています。地域の現場をどういうふうに使っていききたいかという、人材研修の場として使っていききたいという企業さんも最近非常に多くお問合せをいただいています。自分の組織を超えて、越境することによって修羅場経験を積ませたい、そういった人材研修の場としても活用していきたいという声なんかもたくさんいただいております。

また、ワーケーションやリモートワークなんかも含めて、このあたりは皆さん御存じのことかなと思いますけれども、新しい働き方という観点でも非常に活発な動きをされている企業さんも多いかと思ひます。

また、地域の自治体さんと連携をして、新たな事業をつくっていききたいという企業の皆さんも非常に多くなつてきております。実証実験をやったりという例があるかと思ひますけれども、こんなところが副業として現在たくさんお問合せいただいている背景かと思ひます。

また一方で、地域の企業さんも我々にお問合せを非常にたくさんいただいております。そもそもこのまま今の事業をやってもなかなか先が見えないので、どんどん新しいことに挑戦していききたい、やりたいことがあるんだけど、なかなかやれる人がいないというところで、外部人材を活用したいということで、副業を取り入れたりですとか、また社会人、プロボノ、大学生のインターン、こういったものを活用して新しい事業の種をつく

っていきたいというニーズが非常に多いと感じています。ここ一、二年ですけれども、こういった人材はオンラインでプロジェクトを進めていくということが非常に活発になってきていますので、こういったことができる企業さんとできない企業さんというのは、すごく二極化しているなという印象もあります。

今日は冒頭に、副業の導入事例の映像を見ていただきたいと思います。登場人物は、副業を受け入れた企業と副業に参加した人材、それから今日の話題の一つでもあるつなぎ手、間に入っていきコーディネーター、この3人が出てくる映像を少し御覧いただきたいと思います。このつなぎ手を地域コーディネーターと我々は言うておるわけですが、地域の中で副業を推進していくに当たって非常に重要な役割を果たしていると思います。なぜ重要なのかというのは、ちょっと中盤でさせていただければと思います。

今日御覧いただく事例は、三重県津市の山二造酢株式会社、お酢を造っている会社ですけれども、そこに副業人材が入ってきた例というのを御覧いただきたいと思います。こちらの会社は、今回ストレートで飲むタイプのお酢を造ったんですけれども、これをもっと世の中に広めていきたいということで、兼業人材を3人雇ったという話が出てきます。

皆さんには、映像を見ながら、副業人材がどんな役割を果たしていったのか、また企業にどんな変化があったのか、特に事業の組織面、どんな変化があったのかということと、今日は成功事例をお伝えしますので、成功のポイントは何だったのかということと、最後にコーディネーターのインタビューが出てくるんですけれども、その中でこういうところの必要性はどんなものかというあたりを少し御覧いただければと思います。

では、流していただきます。15分前後ですけれども御覧いただければと思います。では、よろしく願いいたします。

(映像上映)

スライド10に事例のまとめが書いてありますので、こちらはまた御覧いただければと思います。

スライド11ですけれども、事業の成長エンジンということで、副業人材が地域の企業さんの事業の何らかの役に立つというところはもちろんあるんですけれども、一番大事なのは右側のほうで、組織自体の風土が変わっていくですとか、新しい人と仕事をする事で組織の中がいろいろ変容していくという部分が、副業人材の導入においては考えるべき重

要なポイントなんじゃないかと思っています。今日はこちらがメインですので、少しこちらのほうの御紹介ができたかと思っています。

担い手の役割ですけれども、映像の中にも出てきたかと思いますが、地域コーディネーターは人材と地域企業をつなぐ役割をしています。一番大事なのはプロジェクト設計と呼ばれる部分で、企業さんの経営課題を把握したり明確化したり分析したり、また何をしていったらいいのかという仮説の設定を支援したり提案したり、またそこに対して、その会社はインターンも入れていたという話も出ていましたけれども、どんな人材が必要なのかということを確認して御提案していくということが1つ大事な役割です。もちろん、そういった人材を集めてきたりマッチングしたりということも大事ですけれども、その後の伴走支援ということも非常に重要な役割かと思っています。

全国にはこうしたつなぎ手、担い手を担う方々というのは、我々もたくさんネットワークをしております。特に北陸エリアは、各県に1団体ずついらっしゃるんですけれども、こういったところと連携をしていきながら副業を広めていくということも非常に重要な考え方かと思っています。

地域でコーディネート機関を立ち上げる際に、いろいろな立ち上げ方があるんですけれども、自治体主導型であったり、協力隊制度を活用したり、コンソーシアム型ということで、地域で連携して進めていくということも可能かと思っています。

千葉県の銚子市の例ですけれども、銚子円卓会議というところで銚子市の各機関が連携して人材育成等を行っていくんですけれども、この事務局に入っているNPO法人さんというのが結構重要な役割をなさっていて、そういったところと信金さんだったり会議所が連携をして人材のコーディネートをされている事例もあります。

最後のスライドですけれども、副業推進に当たってのポイントです。

やはり副業にはいろいろな目的があります。企業さんも新たな事業をつくっていきたいのか、足りないスキルを補充したいだけなのか、そういった点でもいろいろな目的がありますし、また、人材もいろいろな思いで副業に参加したいと考えていらっしゃると思います。地域の皆さんも、自治体含めていろいろな計画の意図というのがあると思います。このあたりが少しごちゃごちゃになってくると、非常に満足度が下がっていったりするケースというのがあるかと思っています。

そういった意味で、②ですけれども、最初は丁寧にモデルをつくっていくということが非常に大事かと思っています。先ほどのスライドでお金の¥マークが入っていると思うんです

けれども、こういったコーディネート機関は、受入れ企業さんや人材からコーディネートフィー、お金をもらってコーディネートしている事実もたくさん出てきています。お金を払うということは、企業さんは満足をして育てたいということもあるかと思います。今、全国各地で税金を投入して副業を広げていこうという動きが盛んに行われていますけれども、3年続いた後に継続する仕組みにしていくためにも、やはりお金を動かしていくことは非常に重要かと考えています。こういった事例を丁寧につくっていくことで、モデル事業の期間が終わった後も、その地域に副業が文化として根づいていくということが挙げられるんじゃないかと思っています。そういったことを実現していくためにも、こういったコーディネート機能を持つということが非常に重要かと考えております。

では、私のパートはここまでにして、次は菅野さんにお譲りしたいなと思います。

以上